

# 手作り札競って歓声

島原農高・オリジナル百人一首で大会



身を乗りだして札を取る生徒

＝島原農業高

新年を前に、島原市下折橋町の県立島原農業高(前田達彦校長、381人)で23日、「島農百首かるた大会」があり、全校生徒が手作りの札を囲み、熱戦を繰り広げた。古典の世界に慣れ親しむ恒例の大会で、同校オリジナルの「農高百首」を使った。小倉百人一首などのほか、2007年度までの在校生が詠んだ23首も盛り込んだ全100首。「火砕流流れるたびに消えてゆく町もわが家も夢のごとくに」「農高のみどりいっぱい広がりて 復興の街自らの手で」など、雲仙・普賢岳噴火災害当時の光景のほか、部活動や実習など高校時代の思い出も歌われている。

大会は学年別に1組3～5人で、クラス対抗の2回戦を実施。生徒たちは真剣な表情で耳を澄ませ、札を目で追った。1首ごとに歓声を上げたり、お手付きに頭を抱えたりするなど一喜一憂しながら楽しんだ。

生活福祉科3年、内田鳳羽さん(18)は「農業高らしい歌は、先輩の思いが伝わる。当時の噴火の状況も想像できた」と話した。

(大田裕)